

■得能良介 技術官僚。印刷局の創業に携わり、優秀な国産紙幣の製造・紙幣贋造防止に努めるも、数年で没した。

とくのうりょうすけ

異国船打払令1825＝

薩摩藩士得能直介の長男として、父の死去後に生まれ、

鹿児島城下で祖母の藤、母の吉に育てられる。

シボム事件・1828＝ 3歳：

高島砲術・・1834＝ 9歳：

大塩平八郎乱1837＝12歳：

天保改革始・1841＝16歳：出仕。

順天堂始・・1843＝18歳：

阿部正弘首座1845＝20歳：

万次郎帰国・1852＝27歳：

ペリー来航・1853＝28歳：

記録所書役助・御側御用人座書役・長崎御付人勤などを歴任する間、島津斉彬・同久光の側近として、小松帯刀・西郷隆盛・大久保利通らを輔け国事に奔走、家格を小番に進められる。

桜田門外変・1860＝35歳：

遣欧使節・・1861＝36歳：

明治維新・・1868＝43歳：

初の日刊新聞1870＝45歳：*大久保利通の推挙で、民部大丞兼大蔵大丞に任じられ、大蔵権大丞を経て、

廃藩置県・・1871＝46歳：

学問のすすめ1872＝47歳：

出納正、ついで出納頭となり、国庫出納を管掌したが、
出納帳簿の様式改正をめぐり渋沢栄一と衝突、庁内で暴力を奮った廉で免官となる。司法省に採用され、
権大検事・司法少丞を歴任、

明治6年政変 1873＝48歳：

佐賀の乱・・1874＝49歳：

*大蔵省に復帰して紙幣頭となる。
この間、銀行学局を設立し、国立銀行条例改正を推進するなど、銀行行政に関与し、渋沢の第一国立銀行頭
取就任を推挙した。以後、組織改正により、

西南戦争・・1877＝52歳：

琉球処分・・1879＝54歳：

*紙幣局長から、印刷局長となり、一貫して印刷局の創業に携わる。
紙幣・証書・印紙・文書などの印刷業携については、工場経営規則などの制定、外国人傭聴による技術者
の養成、印刷・抄紙工場の建設などをすすめる、優秀な国産紙幣の製造および紙幣贋造防止のため尽力し、部
下の信望を集めたが、

明治14年政変1881＝56歳：

岩倉具視没・1883＝58歳：

*現職のまま、印刷局官舎で、没した。